

かがやく明日への人づくり

～21世紀を担う子供たちの「生きる力」を育む
保育・教育の推進～

地域の
特色ある
活動

1 はじめに

令和元年に市制60周年を迎えました南国市は、高知県の中央部にあり、土佐の稲作の発祥の地といわれています。平安時代には、紀貫之が国司として来任し、京へ帰る際に記した「土佐日記」は、わが国最古の「かな」で書かれた文学的評価の高い紀行文として有名です。

このように、豊かな自然と歴史に恵まれるとともに、本県の陸・空の玄関である高知龍馬空港や高知自動車道をはじめ、歴史も軌道の長さも日本一を誇る路面電車の東の発着駅を有するなど、高知県の交通の要衝としても重要な役割を果たしています。



人口約47,000人の本市は、教育環境にも恵まれており、幼稚園・認定こども園の4園をはじめ、保育所・保育園15施設、小中学校19校（分校を含む）、高等学校4校、高等工業専門学校1校、高知大学（医学部・農学部）があり、各機関が専門性を活かした連携による教育も展開しています。

本市のまちづくりの指針として「第4次南国市総合計画」における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を展開しています。教育委員会ではこの総合計画を上位目標として、「かがやく明日への人づくり」をスローガンに、21世紀を担う子供たちの「生きる力」を育む保育・教育を目指し、南国市らしい特色ある教育に取り組んでいます。

2 子供たちの「生きる力」を育む保育・教育の推進

本市は、時代の変化に柔軟に対応した健康で文化的な活力ある社会の形成者として「六育」（智育・徳育・体育・食育・才育・防育）を核としたバランスのとれた保育・教育の創

高知県南国市教育委員会

造に努め自主性に富んだ人間性豊かな市民の育成を目指しています。

そのために、保育所・保育園・幼稚園、学校、家庭、地域の連携と協働による保育・教育の充実に努めなければならないと考えています。

ここでは「六育」の中の（智育・食育・才育・防育）の取組についてご紹介します。



3 「六育」を核とした「生きる力」の育成

① 智育の推進

「南国市保幼小中連携学力向上推進プラン」を策定し、15か年の保育・教育を見通した子供たちの発達段階に応じたきめ細やかな系統的・継続的な取組を行っています。

保幼小中連携をとおして、組織的なPDCAサイクルによる授業改善、家庭学習の定着、規範意識の育成など「学び」の質の向上を図るとともに「知識や技能の習得にとどまらず、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる子ども」の育成に取り組んでいます。



② 食育の推進

「食育のまちづくり宣言」や「食育のまちづくり条例」に象徴されるように、本市の代名詞と言える食育は優れた教育財産です。市立幼稚園と小学校の学校給食は、自校調理で給食提供を行っていますが、一番の特色は、地元南国市産棚田米（中山間米）を家庭用電気炊飯器で炊き上げ、炊き立てほかほかのご

飯を提供していることです。また地元生産者の顔の見える旬の食材をふんだんに取り入れた献立にも工夫を凝らしています。このように、学校給食を生きた教材として、地元生産者との交流や農業体験学習など生産から消費まで、食育全体をとおして、ふるさとを愛する気持ちや感謝の心情を育てていきたいと考えています。「食の自立」は、生きる力の土台であると考えています。



まるごと南国産

また、平成 29 年には、災害時の配食拠点施設としての機能を兼ね備えた南国市学校給食センターが竣工し、中学校給食が供用開始となりました。小中連携による義務教育 9 年間を見通した系統的・継続的な食育の推進を図るために、新たな食育推進拠点として取組を進めています。

③才育の推進

児童生徒の発達段階に応じた豊かな情操を育み、自分の良さを見つけ、どの子も持っている興味・可能性・能力に気付くことができる子供を育てるために、発達段階に応じた様々な体験や経験を大切にされた教育活動を推進しています。そして、児童生徒が学校や家庭・地域の中で、自らの立場や役割を理解し、自分が大切な存在であることを自覚することで自己肯定感を高められるように努めています。

小規模小中学校特認校制度の活用も才育を推進する取組の一つです。市内在住で希望すれば、校区外の地域から特認校に通学できるという制度です。それぞれの特色ある学校固有の環境（自然、社会、文化的風土、特色ある教育活動など）のなかで、心身の健やかな成長を促し、豊かな人間性を培い、明るく伸び伸びとした個性を育てていきたいと考えています。

また、ものづくり教育に力を入れています。本市は、からくり人形や土佐打ち刃物、農業用機械の製造等古くからのものづくりの素地があり、世界的シェアを持つ製品や最先端の技術力を有する企業人を生み出してきました。



海洋堂 Space Factory なんこく

令和 3 年には、「ものづくり」をテーマとした「海洋堂 Space Factory なんこく」が開館しましたが、見学や体験をとおしてもものづくりの魅力に触れながら、豊かな個性を伸ばしていきたいと考えています。

④防育の推進

安全・安心で質の高い教育環境の実現に向け、地震や津波だけでなく、集中豪雨等その他の自然災害についても正しく理解し、いざという時に的確に判断できる力を身に付け、「自分の命は自分で守る」ことのできる防災教育を推進しています。また、防犯対策や登下校の安全対策についても関係機関や保護者・地域との連携を強化しながら、学校安全教育を推進しています。

本市は宮城県岩沼市と昭和 48 年より姉妹都市の提携を結んでおり、平成 5 年 4 月姉妹都市親善協会を発足するなど交流を深めています。姉妹都市提携 40 周年を記念し平成 25 年より南国市の児童生徒と教員が宮城県岩沼市小中学校を訪問し、防災について学び合うとともに、交流をとおして、これからの南国市について考える貴重な機会が得られると捉えています。



4 おわりに

本市は、県内で児童生徒数が一番多い小中学校から複式学級を有する小規模校まで学校規模の多様さに特徴があります。また、市内全体の児童生徒数減少とともに、大規模地震による津波浸水区域や土砂災害警戒地域に立地する学校もあり、20 年後・30 年後を見据えた学校の在り方について検討を進めています。

本市の目標である「誰もが希望を持ち、安心して暮らすことのできる魅力的な地域をつくる」に向け、地域が学校を拠り所とする本市の風土を継承しながら、子供たちの将来にわたっての望ましい教育・保育環境を維持し、更なる発展をしていけるよう今後も教育の充実に努めていきたいと考えています。



教育長

竹内 信人